

種をまく

「おい、レフェリー、ファウルだろ！ どこ見てんだよー」。サッカーの試合で、選手や監督が審判に文句を言うのは当たり前にある光景。だが日本フットボールリーグ（JFL）に今季昇格した藤枝MYFCの社長、小山淳さん（35）は、その当たり前が、嫌いだ。

■子どもたちの目

昨季の開幕にあたり、小山さんは「紳士（真摯）なれ」という行動規範と、異例の内規を掲げた。「茶髪、長髪、ひげ、ピアス禁止。審判への異議で警告を受けた者は3試合の出場停止」。Jリーグ関係者に「独裁的ではと驚かれたが、「子どもたちの目にどう映るか。それを基本に据えたら

真のスポーツマンシップ、実践



「チームと社員全員が隔週で集まり、規律について自由に議論しています」と、藤枝MYFCの小山淳社長（手前左）＝藤枝市の藤枝総合運動公園サッカー場

藤枝MYFCの小山淳さん

決断が楽になりました」と小山さん。「これからのサッカークラブには教育的価値が必要。真のスポーツマンシップを僕らが実践する」。選手は了解し、小山さんも少し茶色かった髪を黒に戻した。

真のスポーツマンシップとは good feeling（良い仲間）になること。ルール、相手、審判を尊重して全力を尽くすことで自立した人間になること。小山さんの藤枝東高の先輩、広瀬一郎多摩大教授スポーツ経営学が、日本に広めようとしている教えた。

内規を決めて数カ月後、攻撃の柱であるブラジル人選手が審判の判定に抗議して警告を受け、内規通り出

場停止に。だが選手本人が「当然だ。いいルールだ」と腐らなかつた。以来、チームの異議による警告は、ゼロ。

小山さんは早大時代、足のけがでサッカーを断念した。33カ国を放浪後、東京でwebデザイン会社を起業、軌道に乗せた。スポーツ企業の新しいあり方を構築しようと、2009年にクラブを創設。J1から数えて6部の県リーグから出発。大企業の後ろ盾はない。

■ロールモデルに

自身は小中高と日本代表だった。ドリブラーで、反則覚悟のタックルも山ほど受けた側。選手をつぶすプレーには眉をひそめる。選手の一部は、クラブが

経営するサッカースクールの講師も務める。週末、観客席には「先生がんばれ！」と手を振る小さな生徒たちの姿が。「子どもたちの目」が、そこにある。

「結果、強くなりました。審判や他人に文句を言うのは「逃げ」ですよ。その何秒かが積もれば1試合でどれだけになるか。切り替えが速く、粘り強く走るチームになり、前年惨敗したJFL昇格戦も勝ち抜いた。

J1、J2に次ぐJFLは甘くない。今季は苦しい戦いが続く。それでも小山さんは言う。「きれいごとでは勝てないという常識を覆したい。強くなってJ1に行ったとき、僕らがロールモデル（手本）になる。社会が変わると思います」

△月1回掲載します▽

生活

★あすの運勢★ 二世・易八大

5月10日（木曜日）

生まれ月	◎最良	○良	△普通	▽注意	五行易判断	吉数	吉色	方位	健康	金運	異性
1月	ひとりの活路が	のやらない	頑張り	努力に	△△△	6	茶	北東	○	△	△
2月	気ままな行動に	独断、独善	禁物	迷い道	△△△	9	黒	北	△	△	△